



社会福祉  
法人

一人ひとりに愛と希望を

九十九里ホーム

創立75周年記念

第 20 号

平成22年10月1日発行

# ひとつぶの麦

社会福祉法人

九十九里ホーム

〒289-2147

千葉県匝瑳市飯倉21番地

TEL 0479-72-1131(代)

<http://www.99-home.com>



(聖マーガレットホーム 澤田 明江さん)

「主はすべてのものに恵みを与え

造られたすべてのものを憐れんでくださいます。」

— 旧約聖書「詩編 145編9節」—

聖マーガレットホーム入所者の澤田明江さんがスティックを口にくわえてパソコンで今回描いてくださったのは、川辺の風景です。オランダのこのような風景がよく知られています。この絵の風景を見て自然と人びとの生活が調和している温かさのようなものを感じられないでしょうか。私は子どもの頃、初めて水車小屋の中に入った時のことを思い出しました。水の力を利用して杵と臼で穀物を粉にしている光景です。「エコ」という言葉を毎日のように耳にしますが、私たちは神様が与えてくださった自然を大切に、調和することによってその恵みを知り、心も豊かにされるように思います。

日本聖公会八日市場聖三一教会 管理牧師  
九十九里ホーム・チャプレン 司祭 ルカ 片山 謙

## 九十九里ホームの歩み〈第六回・最終回〉

### 創立80周年、100周年に向け

### 医療・福祉サービスの一層の充実を目指して

当法人は、昭和53年の松丘園の開設後、ミス・ヘンテ記念ケアセンター、第二松丘園、九十九里ホーム山田特別養護老人ホーム等を建設し、老人福祉事業を拡充するとともに、聖マーガレットホームを開設し障害者福祉事業を開始しました。第六回・最終回では、創立から75年間の活動の歴史と80周年、100周年に向けた今後の課題と取り組みについてご紹介します。

#### 75年間の地道な活動による地域、ご利用者からの信頼

当法人は、昭和10年10月1日にイギリス人宣教師A. M. ヘンテ女史によって結核患者のための保養所として設立され、本年10月1日で創立75周年を迎えます。昭和20年8月には医療機関としての認可を受け、結核療養所として当時国民病とも言われた結核に正面から取り組み、千葉県下でも有数の治療拠点となりました。その後、結核患者の減少とともに昭和30年代から40年代にかけ整形外科と内科を中心とした一般病院へと転換しました。同時期近隣の自治体も公的な総合病院を次第に整備してい



創立当初の九十九里ホーム

きました。民間病院としてこれらの病院と競合していくのではなく、昭和27年に取得した社会福祉法人の法人格を活かし、当時既に進みつつあった高齢化社会に対応すべく昭和53年に特別養護老人ホーム松丘園を開設し老人福祉事業を開始しました。その後、老人保健施設、養護老人ホーム、身体障害者療護施設（当時）、在宅介護サービス等の福祉サービスを整備していき、医療、福祉サービスを一体的に提供できる体制を構築しました。

しかし、その間幾多の困難な事態に直面しました。第二次世界大戦をはさんだ時期、良心的な運営は経営面では厳しい状態となりましたが、ヘンテ女史の援助により施設の運営をかり

じて継続することができました。また、昭和40年代に起こった過激な労働組合運動により病院機能はマヒ寸前にまでなりましたが、組合員以外の職員の懸命な努力で最低限の病院機能を維持しました。当法人は、あまりに過激な労働組合運動を指導した職員を懲戒解雇しましたが、それをめぐり労働争議は長期間継続しました。しかし、その後千葉地裁の判決で当法人の正当性が認められました。



現在の法人本部

このように、当法人は、多くの困難を乗り越え、地域の医療、福祉ニーズに答えるべく、75年間にわたり地道

に医療、福祉活動を続けてきましたが、これらの活動は地域の方々より強い信頼をいただけるようになりました。

#### 地域、ご利用者からの信頼による事業展開

平成20年4月に、匝瑳市在住の太田定吉様が私財をもって建設された通所介護施設「ケアサロン悠々」を当法人に寄付していただき、施設の運営を任せさせていただきました。太田様が通所



介護施設を建設されたきっかけは、ご自身の奥様が認知症になられ介護サービスの必要性を痛感され、地域で暮らしている介護が必要なお年寄りが気軽に利用できるような施設を作ろうと思われたことです。当法人に寄付され運営を任された理由は、太田様ご自身が直接運営されるよりは、地元で長年にわたり医療、福祉活動で実績のある当法人に任せ、運営するのが一番いいと判断されたことです。また、太田様と当法人との長年にわたる交流に基づく信頼関係ももう一つの理由とのこと。「ケアサロン悠々」は、サロン、リハビリコーナー、和室、坪庭付きの風呂などを備え、太陽光による発電など環境面にも配慮したゆったりとした小規模型の通所施設で、ご利用者の方々にも大変好評です。



ケアサロン悠々のゆったりしたサロン

「ケアサロン悠々」の開設と同じ平成20年4月に、老人保健施設日向の里が当法人の施設に加わりました。同施設を運営していた医療法人が法的整理となり、当法人にて引き取り運営をしてもらえないかとの要請がありました。当法人としては、なによりも入所者の方々の混乱を避けることが社会福祉法人としての使命と考え、この要請をお受けすることにしました。設備も立派に整っており、周りの環境もよく、混乱なく引き継ぎができれば、安定した運営が何とか可能であると判断しました。退職者を一人も出さず、すべてのご利用者と職員を当法人にて引き受けました。このように全く混乱なく大規模施設の運営の移譲ができた事例は過去あまりありません。



緑に囲まれた日向の里

平成22年4月には、匝瑳市よりの委託事業であった養護老人ホーム瑞穂園が、「社会福祉法人九十九里ホーム養護老人ホーム瑞穂園」として当法人に移譲され、民設民営の施設となりました。

このように、他からの要請により当法人が経営する施設数が増えており、これも創立以来75年間の地道な活動が地域より評価していただいているものと感謝しております。

## 創立80周年、100周年に向けた今後の課題と取り組み

当法人は、これまでの75年間の実績を踏まえ、創立80周年、100周年に向け、引き続き地域の医療、福祉ニーズに応えられるよう活動を継続してまいります。そのため、以下のような解決すべき課題や取り組みに注力してまいります。

### ①既存施設の療養環境の整備

当法人の施設の中には、開設してから長期間経過し、設備の老朽化が目立ってきたものがあります。今後、それらの施設の増改築等を行い、ご利用者にとってより快適な療養環境を整えてまいります。現在、創立75周年記念事業として、松丘園の改築工事を進めています。新松丘園は、地上5階建て、入所定員は160名（ショートステイ含む）となります。また、第二松丘園は、隣接地に増築工事が予定されており、入所定員は現在の倍の140名（ショートステイ含む）にするとともに、新たにデイサービスセンター、グループホーム、地域交流スペースや地域包括支援センター等を建設いたします。更に、瑞穂園の機能強化のため、隣接地に小規模型特別養護老人ホームを検討しております。また、九十九里ホーム病院の診療機能の中心である診療棟も改築が必要です。その他の施設につきましても、地域ニーズを踏まえ、ご利用者の利便性の向上のために機能の強化を検討してまいります。

## ②九十九里ホーム病院の経営の安定化と地域における役割の明確化

度重なる診療報酬の引き下げや医師不足等により、多くの医療機関は経営の厳しい状態におかれています。九十九里ホーム病院も例外ではなく大きな影響を受けています。九十九里ホーム病院は、当法人の中核施設であり、経営の安定化をはかり引き続き必要な医療サービスを提供していかなければなりません。また、地域における当病院の役割を明確にし、他の医療機関との連携を一層進めることにより、地域の医療ニーズに応えられるようにする必要があります。

## ③法人内各施設の連携の強化と情報・知識の共有化

当法人には、病院→老健→特養という基本的なケアの流れがあり、当法人の特徴にもなっています。また、法人内の各施設から九十九里ホーム病院に入院されるご利用者も多数いらっしゃいます。これらの流れをスムーズにしていくためには、各施設間の緊密な連携が必要です。当法人では、各職種毎の連絡会議や委員会等をきめ細かく開催していますが、今後ともこれらの活動を積極的に進め、法人内各施設の連携を強化すると共に、業務等に関する情報や知識の共有化を進めてまいります。

## ④教育・研修による職員の能力向上と業務の改善

ご利用者に対して満足していただけるようなケアを提供するには、職員個人個人が能力を向上させ、業務改善を進めていくことが不可欠です。当法人では、新人職員研修、医療安全・感染症等の各種研修会、研究発表会等を行って、職員の知識や能力の向上をはかっています。また、各施設では、業務の改善に向けた様々な取り組みを実施しています。今後とも、これらの取り組みを一層強化し、職員の能力向上と業務改善をはかってまいります。

## ⑤法人内LANの構築を中心としたIT化の推進

医療、福祉分野のIT化は、他の分野に比べ著しく遅れており、業務の非効率化の原因ともなっています。当法人においても、IT化は進んでおらず、この課題に早急に取り組んでいかなければなりません。多施設からなる当法人の連携や情報・知識の共有化を促進するためにも、法人内のLANを構築し、IT化を進めることが不可欠です。しかし、IT化そのものが目的化してしまっている事例も多く、ITを活用して何をするのかを明確にした上で、必要なシステムを導入することが必要です。また、一部の職員だけが利用するのではなく、職員全体が活用できるように、研修の実施や運営体制の整備をはかることも重要です。

## ⑥地域ニーズに対応した新規事業の推進

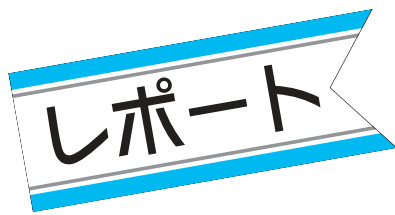
当法人の75年間は、変化する地域の医療、福祉ニーズに対応して、事業を転換してきた歴史とも言えます。現在は、病院、福祉施設を中心とした施設経営が事業の中心ですが、地域社会の変化に合わせ、事業の幅を拡げ、様々な状況下にある方々全てに適切なサービスを提供できるよう心がけてまいります。

当法人の設立の原点は、A. M. ヘンテ女史の「困っている人」に「愛と希望」をささげたいという願いであり、多くの先人の努力で一步一步実現してまいりました。今後、創立80周年、100周年に向けても、当法人と職員一同は、これまでの75年間の歴史を心に刻み、A. M. ヘンテ女史の願いを実現すべく努力してまいります。



創業者 A. M. ヘンテ女史





—創立75周年記念事業—

## 特別養護老人ホーム 松丘園の改築工事進行中



起工式で鍬を入れる江波戸美代園長

特別養護老人ホーム松丘園は、昭和53年4月に50床で開設し、翌54年には2階部分に50床の増床を行い、100床の老人ホームとして地域の高齢者福祉の拠点として活動してきました。開設以来30余年が経過し、設備関係が老朽化して入所者の皆様にご不便をおかけするようになってきてしまいました。くしくも本年は九十九里ホームが創立されて75周年の記念の年であり、理事会の承認を経て改築の運びとなりました。3月27日に日本聖公会横浜教区の聖職司式の下、起工式を挙行しました。工事は、平成23年3月末の完成を目指し、予定通りに進捗しております。

新松丘園は、地上5階建て、入所受入人数は160名（内10名は短期入所）で、2階から5階が入所スペースとなります。特に5階は個室のみで、部屋の面積が2階から4階の個室よりも広くなっており、より快適な生活が送れるよう設備も充実しています。2階から4階は各階多床室10室・個室4室で、入所者の特性に合わせて選んでいただけるようになります。各階に浴室、トイレ、食堂が整備され、出来るだけ多くの方々にご利用いただけるよう工夫をしております。

### 『今日までずっと これからも...』

地域の福祉、介護の核として、創立の精神と75年の伝統を堅持し、役職員一同精進して参ります。工事期間中は、何かとご不便をお掛け致しますがご理解とご協力をお願い致します。



新松丘園完成予想図

## 市野カツ子さん逝去三周年記念祭開催

九十九里ホーム病院の総婦長、松丘園の初代園長を務められ、また、八日市場聖三一教会の司祭夫人でもあった市野カツ子さんの逝去三周年記念祭が、6月12日(土)に八日市場聖三一教会にて行われました。市野さんに公私共にお世話になった当法人の江波戸美代専務理事に市野さんの思い出を語っていただきました。

市野カツ子さんは、東北地方の気仙沼の出身でとても我慢強く、一度決めたことは必ず実行する意志の強い方でした。私が市野さんと始めて出会ったのは、小学校1年生の頃(昭和28年)だったと記憶しています。今思いますと、ちょうど結婚されて当地に来られた頃で、とても熱心に教会の日曜学校も手伝っておられました。しかし初めての地は、教会信徒の気持ちがあたかも苦勞された時期でもあったようです。彼女の明るいそして頼りがいのある姿勢は、徐々に信徒の気持ちを和ませ、特にお料理では積極的に講師を招いて教会婦人会の人達にお料理教室を開く等、当時としては画期的な企画を実践されました。

仕事の面では、昭和53年4月に特別養護老人ホーム松丘園が開設するまでの23年間九十九里ホームの看護職員のトップとして指揮を執り、また松丘園の初代園長として平成8年4月までの18年間、職員、入所者、家族のよすがとして走り続けてこられました。当地に来て以来40年以上を二足のわらじでがんばって来られた彼女の姿は、九十九里ホームの創立者のヘンテ女史の“神を信じ人を愛する”使命を日常的に実践していたのだと今改めて思い出しております。もう3年経ってしまいましたが、いつまでも私たちの中に生きておられます。



## 「おもてなしの花」づくりに協力

～聖マーガレットホーム～



花を手入れする入所者

聖マーガレットホームでは、9月25日から10月5日に開催される「ゆめ半島千葉国体」に向けて「おもてなしの花」づくりに参加して

います。これは全国から国体に訪れる皆さんを、心のこもったおもてなしでお迎えする活動のひとつです。匝瑳市国体準備室からプランターを20個お引き受けし、入所者の日中活動花班が中心となり、国体開催期間に花が咲くように作業を進めました。6月にまいたサルビア、マリーゴールド、ダリアなどの種から芽が出て、8月にプランターに定植作業をおこない、9月に会場へ飾りました。心を込めて咲かせた花で、笑顔のあふれる大会になるよう祈っております。



## ボランティア感謝の集い開催

7月10日、「ボランティア感謝の集い」が成田ビューホテルにて開催されました。今年は当法人が創立75周年を迎えた節目の年でもあり、100名を越すボランティアの皆様にご参加頂くことが出来ました。九十九里ホーム病院・岡崎院長による「美しく年をとるために～骨粗鬆症を中心に～」と題した記念講演が行われました。実際に体を使ったり、時に



講演をする岡崎院長

はユーモラスなエピソードを交えた説明に、御参加頂いた皆様も楽しみながらも真剣に聞き入っておられました。

その後開かれた懇親会では、ボランティアの皆様がカラオケやコーラス、ハーモニカ演奏など多彩な出し物を披露して下さる等、和気あいあいとした雰囲気の中で大変盛り上がり、ボランティアの皆様の力強いパワーを感じました。ボランティアさん同士で交流なされ、情報交換をはかる姿が見受けられるなど、有意義な時間を過ごされたようです。

当法人の各施設は、多くのボランティアの皆様を支えられております。創立75周年を迎え、皆様の日頃の多大なる御協力に感謝すると共に、今後もなお一層の交流をはかり皆様のご期待に沿えるよう、努力して参りたいと思います。ご出席頂いた皆様、ありがとうございました。

## ～ 小鳥と押し花絵のコラボレーション ～ 「小鳥たちと押し花絵展」開催

5月10日(月)から5月22日(土)まで、第二松丘園において足立たま様の押し花絵展が開催されました。

この度は、原谷和夫様の珍しく、美しい小鳥の写真と押し花絵の共同作品展示となりました。足立様は、作品を見てくださる方々の心を少しでも癒せたらとの想いで、現在病院や介護施設で押し花展を開催されておられます。

原谷様は野鳥を撮りはじめて10年。ウォーキングの最中によく野鳥に出会い、美しい鳥なども目にするようになり、間近に見る身近な野鳥をカメラにおさめているそうです。

期間中たくさんの方々の方々の来場があり、作品を見ながら「すごい上手だね」「これ本当に花で出来ているの」などと驚きの声が聞かれ、見ている方々も真剣な眼差しで押し花絵や写真を見ていたのが印象的でした。



人物も花で表現

## ご家族向けにリハビリ介助教室を開催しました。

九十九里ホーム病院リハビリテーション科では、当法人を利用されている方とご家族を対象とした『リハビリ介助教室』を年2回開催しており、今年で7年目となります。内容は、家族単位での個別指導と参加者同士のディスカッションです。個別指導では、事前に動



作能力や介助量、食事の形態、その他困っている事を把握し、すぐに実践できる介助方法

をリハビリスタッフで検討し、アドバイスをを行います。また、制度上の相談には医療相談員が対応します。最近では、介助方法以外にも口腔ケア、食事摂取方法の相談や、認知症への対応、介護者の精神的ケアの相談も増えてきました。ディスカッションでは、入院中の方が、在宅生活をしている方へ「お風呂はどうしていますか？」などの質問をしたり、「どう障害を受け止めたらよいか分からない。」と悩みを打ち明け、日頃抱えている悩みを他の家族と共有し経験談を語りあう事で気持ちが楽になり「参加して良かった。」と好評の声を頂いています。次回は11月20日(土)を予定しています。

## スリランカ民族舞踊団との国際交流

～養護老人ホーム瑞穂園～

国際交流の一環として、本年4月20日に当園にスリランカ民族舞踊団



驚くようなジャンプ

の訪問がありました。入所者の皆さんは、今

までに見たことのない民族舞踊に驚くと同時にうっとり見とれていました。とても美しく素敵な笑顔に魅了されました。終了後、入所者とのふれあいの時間では、言葉は通じなくても心が通い合う一時をすごしました。スリランカはお年寄りを大切にするお国柄とのことで、入所者ともすっかり仲良しになりました。

## 第二松丘園に待望の桜が植樹されました

4月19日(月)、小雨が降る中第二松丘園駐車場南側に2本の桜が植えられました。

桜の木は松丘園改築工事に伴い、敷地内に植えられていた2本の桜の木が、第二松丘園に移ってきたものです。

村越園長の命名により、この桜には夫婦桜という名前が付けました。2本の桜の木が寄り添うように美しい姿に植えられ、今はまだ細い枝も何年後かには、太くたくましい幹に育つことを祈っています。

来年の春、この夫婦桜に花が咲き、利用者

様、ご家族、職員と一緒に花見ができる事を願っています。

皆様もぜひ、第二松丘園にお立ち寄りの際は、桜の成長具合を見ていただき、来年の春を楽しみにしていただけたいと思います。



並んで植樹された夫婦桜



# 血管年齢測定サービスを実施

～ 5月12日は看護の日～

毎年5月12日は、ナイチンゲールの誕生を記念して看護の日に制定されています。

今年も5月9日から15日までの1週間を看



護週間として全国各地で様々な行事が行われました。九十九里ホーム病院においても、記念行事として5月11日に来院された患者さんやご家族の皆様に血管年齢測定サービスを行いました。ご利用された方々からは、「思ったより若くて良かった」「実際の年齢より高かったので健康に気をつけよう」などの感想が聞かれました。当病院では皆様の健康を守る医療機関として、今後も幅広く積極的な看護に取り組んでまいります。

## 「九十九ファミリー」大健闘！

### ローリングバレーボール神奈川交流大会にて第4位

当法人のリハスタッフを中心となって結成したローリングバレーボールチーム「九十九ファミリー」が6月26日に開催された第13回ローリングバレーボール神奈川交流大会にてAブロック4位の好成績を残しました。一回戦は昨年度Bブロックの決勝で惜しくも敗れたKWSフェニックス。サーブ、レシーブ、スパイクどれをとってもパワーのある申し分のないチームでした。名前からして強そう・・・と1セット目は緊張し、みんなの体はガチガチでした。2セット目以降は少しずつ声も出て、新メンバーの活躍もありセットカウント2-1で見事勝利しました。しかし、そこで全精力を使い果たしてしまったのか、準決勝・三位決定戦と健闘むなしく勝利をあげることができませんでした。

メンバー一同勝った喜びと負けた悔しさを胸に来年に向けてまた頑張っていきます。

ローリングバレーボールは、床に座ったままネットの下からボールを転がす競技で、健常者から重度障害者まで一緒にプレーできます。

ローリングバレーボールを通して障害者のみなさんが少しでも自立し、活々とした生活を送り、最高の人生を過ごしていただきたいと思います。



## 共同募金会より福祉車両の寄贈

### 聖マーガレットホーム

共同募金会より新しい福祉車両（ニッサン・キャラバン）を寄贈していただきました。

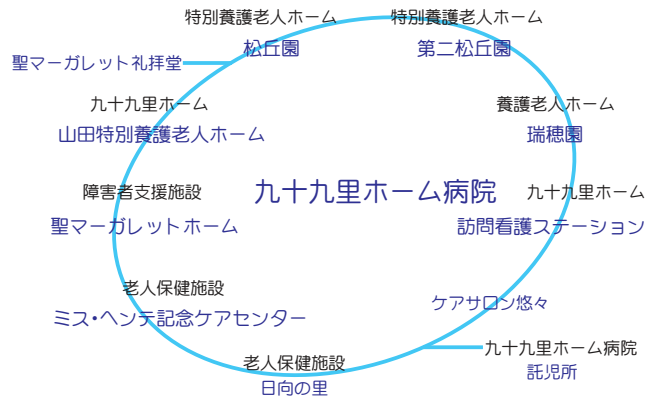
安全運転を心掛け、利用者の送迎に有効に活用し大切に使用させていただきます。ありがとうございました。





法人本部全景

九十九里ホームネットワーク



— 創立75周年記念ロゴマーク、スローガンを制定しました。 —

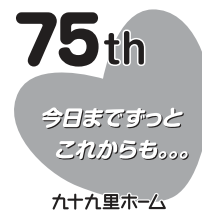
当法人は、A. M. ヘンテ女史によって1935年に結核患者の保養所として設立されてから、本年10月1日で創立75周年を迎えます。これを記念して創立75周年記念のロゴマークとスローガンを制定しました。当法人の職員にデザインを公募したところ多くの作品が寄せられ、その中から最も優秀な作品を基に作成したものです。

今後とも80周年、100周年に向け、医療、介護、福祉活動を通じ、地域に貢献できるよう職員一同頑張っております。

ロゴマーク（カラー）



ロゴマーク（モノクロ）



スローガン（カラー）

今日までずっと **75th** これからも。。。

スローガン（モノクロ）

今日までずっと **75th** これからも。。。

公設民営施設から民間施設へ

～養護老人ホーム瑞穂園～

養護老人ホーム瑞穂園は、昭和60年に当時の八日市場市からの委託を受け、当法人が公設民営施設として運営してまいりましたが、本年4月1日より匝瑳市の委託事業から、民間施設の「社会福祉法人九十九里ホーム養護老人ホーム瑞穂園」として、新たな一歩を踏み出しました。

養護老人ホームは、貧困、虚弱、虐待等で社会生活が困難になった高齢者のセーフティネットとしての役割を今後も果たしていかなくてはなりません。また、高齢化、重度化に対応するため職員配置を手厚くし、防災等に備え夜間体制を強化することで、安全で安心な生活の構築を目指していきます。そして、入所者それぞれに応じたケアや小グループでの活動を行い、さらには、地域活動を通して地域住民の方々との融和を深め、入所者の処遇向上に努めてまいります。当法人の持つ総合力を最大限に発揮することで、入所者一人ひとりが自立心を持ち、自らの人生をやすらぎの中で自分らしく生きることができるよう援助してまいります。